

いのちの授業（愛知県知多市）

【概要】

命の神秘を感じ、自分自身が家族や周囲によって大切に育まれたかけがえのない存在として、自分や周りの人を大切にする気持ちを育てることを目的として、市内の全10校の小学4年生に対して助産師と保健師が「いのちの話」を出前講座で実施する。

【大綱の分類】

- 5) 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する
- 2) 国民一人ひとりの気づきと見守りを促す
- 11) 子ども・若者の自殺対策を更に推進する

【政策パッケージ分類】

- 基本5-1) 児童生徒のSOSの出し方に関する教育の実施
- 重点1-6) 社会全体で若者の自殺のリスクを低減させるための取組

【事業実施年度】2020年度（2015年～）

【事業予算】¥45,000

【利点】

- ▼児童らの「いのち」を大切にする心の育成を図ることができる。
- ▼自分や周囲の人が大切な存在であると知ることによって、いじめや自殺の予防に繋がる。

【実施に至るまで】

背景・必要性

- ①10代での妊娠・出産の割合が高く、出産後、支援の必要なケースが多い背景があった。
- ②子どものころから自分や他者を大切な存在だと思う感覚を育むことで、いのちを守る行動がとれる大人になってほしいという思いがあり、学校教育課や各学校の養護教諭と話し合いを重ね、市で作成された「いのちの教育」指導計画に基づき小学4年生に実施した。

計画を立てる上での工夫

- ①学校教育課や各学校の養護教諭と連携し、知多市小中学校「いのちの教育」指導計画に基づき、学活の授業に組み込んでもらっており、小学4年生に合わせた指導案や媒体を作成している。
- ②講話の中で児童が自由に発言できる時間を設けている。
- ③学校公開日等の保護者が集まる機会に合わせて日程を調整した。（2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため保護者の同席はなし。）

事業の具体的な内容

- ▼クラス担任と打ち合わせ
 - ・日程調整後、実施の1週間前に講話の流れや必要物品、担任にお願いしたいことの確認を行う。
- ▼講話は50分
 - ・1クラス単位で実施。
 - ・受精卵から出産までを手作りの媒体やパワーポイントを用いて講話を実施。実際の受精卵の大きさに穴をあけた紙を配布し、出産場面は写真や産声を用いて出産時の感動を伝える。
 - ・講話の最後に、児童に向けた手紙（自分や周囲のいのちを大切にしてほしいという願いを込めたもので、参考書の文章をもとに保健師と助産師が作成）を読む。

- ・様々な家庭環境で育っていることを前提とし、講話内容や言葉遣いに配慮して実施している。
- ▼抱っこ体験の実施
 - ・講話の最中に児童全員が新生児人形の抱っこ体験を行い、いのちの重さを感じてもらう。

【成 果】

- ▼児童らの感想文から、他者への思いやりの心が育ち、お互いを尊重しあう態度の育成が図られ、自分がかげがえのない存在だと知り自己肯定感を高めることができたと考えられる。
- ▼教員へのアンケートでは、「赤ちゃんが育っていく様子がとても分かりやすかった。」「具体物を多く準備しており、集中して話が聞けていて、とても分かりやすかった。」「実際に赤ちゃんを抱いてみるのができ、児童も体験することができたのが良かった。」等の感想が多かった。
- ▼アンケートは児童に対して実施しておらず、担任教員に対してのみ実施しているが、授業後に児童らの感想文を送付して下さる小学校もあり、その内容をもとに児童らの反応を把握できている。

【補 足】

- ▼児童に向けた講話の様子



【課 題】

- ▼継続的に取り組むことのほかに、市内全中学校にも拡充を目指す。

【事業種別】	学校出前事業
【準備期間】	約 60 日
【人 数】	2 人
【人口規模】	85,377 人
【財政規模】	¥36,700,000,000
【自治体負担率】	100%
【事業対象】	市内全 10 校の小学 4 年生及びその保護者、教員
【支援対象】	市内全 10 校の小学 4 年生及びその保護者、教員
【委託の有無】	無
【実施主体・問合せ先】	知多市健康文化部健康推進課 TEL : 0562 (54) 1300 Mail:hokennet@city.chita.lg.jp

【参考資料・文献】

- ▼特になし